

ネクタリン新品種 ‘ シズクレッド', ‘ チヨダレッド'及び ‘ ヒタチレッド'について

誌名	果樹試験場報告 = Bulletin of the Fruit Tree Research Station
ISSN	09165851
著者名	京谷,英壽 吉田,雅夫 山口,正己 小園,照雄 石澤,ゆり 西田,光夫 西村,幸一
発行元	農林水産省果樹試験場
巻/号	18号
巻号補足	
掲載ページ	p. 1-17
発行年月	1990年3月

農林水産省 農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センター

Tsukuba Business-Academia Cooperation Support Center, Agriculture, Forestry and Fisheries Research Council
Secretariat



ネクタリン新品種 ‘シズクレッド’, ‘チヨダレッド’
及び ‘ヒタチレッド’ について^{†1}

京谷英壽・吉田雅夫^{†2}・山口正己^{†3}・小園照雄・
石澤ゆり・西田光夫^{†4}・西村幸一
果樹試験場育種部
305 茨城県つくば市

New Nectarine Cultivars ‘Shizukured’,
‘Chiyodared’ and ‘Hitachired’

Hidetoshi KYOTANI, Masao YOSHIDA, Masami YAMAGUCHI, Teruo KOZONO,
Yuri ISHIZAWA, Teruo NISHIDA and Kouichi NISHIMURA
Division of Breeding, Fruit Tree Research Station
Tsukuba, Ibaraki 305, Japan

Synopsis

The new breeding program of nectarine (*Prunus persica* Batsch var. *nucipersica* Schneid.) which aimed at the improvement of fruit quality was initiated at the Fruit Tree Research Station in 1961, and three promising new cultivars were released in 1989.

‘Shizukured’ was developed in 1972 from an open pollinated seedling of ‘19-1’. ‘Shizukured’ tree is moderately vigorous and moderately productive. The self-fertile flowers are showy and pink. The fruits ripen in the early season, i. e. early July in the area of origin. The fruit weight averages 140g. The fruit is round elliptic and uniform. Flesh color is yellow and slightly red near the pit. Flesh is soft, melting with a good texture and it is juicy. It

†1 果樹試験場業績番号：A-254 (1989年10月18日受付)

†2 現 果樹試験場盛岡支場 020-01 岩手県盛岡市

†3 現 山形県立園芸試験場 991 山形県寒河江市

†4 元 果樹試験場育種部長

has a moderately sweet and sour taste. The fruit has a clingstone and a little split-pit.

'Chiyodared' was developed in 1973 from the cross 'Hiratsukared' × 'Nectared 5'. 'Chiyodared' tree is moderately vigorous and moderately productive. The self-fertile flowers are showy and pink. The fruits ripen in the early season, i. e. early to middle July in the area of origin. The fruit weighs 170g on the average. It is round to round elliptic and uniform. Flesh color is yellow and slightly red near the pit. Flesh is soft, melting, with a good texture and it is juicy. It has a moderately sweet and much sour taste. The fruit has a clingstone and a little split-pit.

'Hitachired' was developed in 1973 from the cross '19-18' × 'Fantasia'. 'Hitachired' tree is vigorous and moderately productive. The self-fertile flowers are showy and pink. The fruits ripen in the early season, i. e. middle July in the area of origin. The fruit weighs 180g on the average. It is round to round elliptic and uniform. Flesh color is yellow and slightly red near the pit. Flesh is soft, melting, with a good texture and it is juicy. Flesh has a moderately sweet and sour taste. The fruit has a clingstone and a little split-pit.

Key words : *Prunus persica*, Nectarine cultivars, Fruit breeding

緒 言

ネクタリンは果皮に毛じがない、モモの一変種であり、古くから油桃、ツバキ桃、ズバイ桃などとも呼ばれてきた。我が国における栽培の歴史は古く、明治以前から瀬戸内地方、北陸地方などに多数の在来品種が栽培されていた（浅見 1927; 菊池 1948）。しかし、これらの品種は品質が不良で、明治以降、水蜜桃が普及するにつれて次第に栽培されなくなった。

その後、欧米からネクタリン品種が導入され、各地で試作が行われた。また、静岡県興津にあった旧園芸試験場では谷川がネクタリンの改良を試み、1917年に「ブレコース・ド・クロンセル」に「ロード・ナピア」を交配して、1934年に「興津」を発表している（谷川 1934）。しかし、これらの品種も夏季高温多湿の我が国の気候のもとでは裂果が多発したり、病害が多く、栽培が難しかったので、産地は長野県の一部の地域などに限られていた。

アメリカにおけるネクタリンの育種は1940年代から Blake らによって開始され、モモとネクタリンの交雑によって栽培性と品質が改良され、特に果実の外観と日持ち性に関しては急速な進歩がみら

れ、ニュージャージーでは‘Nectared’シリーズ（Hough and Bailey 1962）、カリフォルニアでは‘Le Grand’シリーズなどが育成されている。

我が国でも1960年代以降、‘秀峰’、‘聖ネクタリン’、‘反田ネクタリン’などが民間で育成され、名称登録になっている（果樹種苗 1981～1987）。

果樹試験場では、戦後、アメリカからネクタリンの新品種、系統を導入して特性を検定するとともに、1961年から第3次育種試験を開始し、これらの品種、系統を親にした交雑実生の中から栽培し易くて、果実の商品性の高い系統を選抜し、1972年から第3回系統適応性検定試験を実施した。その結果、‘興津’に‘NJN17’を交配した‘ヒラツカレッド’を1981年に命名、‘もも農林12号’として登録、公表した（吉田ら 1983）。

その後、ネクタリンの育種はモモ第4次育種試験に引継がれ、‘ヒラツカレッド’などの新しい育成系統と導入品種との交雑実生の中から選抜された早生から晩生に至る10系統を供試して第4回系統適応性検定試験を実施してきた。それらの中からここに報告する‘シズクレッド’、‘チヨダレッド’及び‘ヒタチレッド’は熟期が早く、品質が比較的良好であることから1989年6月に命名、公表されたもので、ここにその育成経過と特性を紹介する。

なお、これら3品種の育成に当たり、多大の御協力をいただいた歴代職員、研修生諸君並びに系統適応性検定試験を担当された関係県試験場の各位に心から謝意を表する次第である。

育 成 経 過

1. シズクレッド

本品種は1972年に園芸試験場（神奈川県平塚市）において‘19-1’の自然交雑種子を採り、翌年は種として育成した交雑実生から選抜したものである。‘19-1’は‘興津’に‘NJN17’を交配して育成した系統で、‘ヒラツカレッド’とは両親を同じくする。

実生番号は‘N-18-11’で、1976年に初結実、1978年に一次選抜され、1980年から系統名‘モモ筑波74号’としてモモ（生食用）第4回系統適応性検定試験に供試された。その結果、早生として品質、栽培性が良好であることが認められ、1989年6月に‘シズクレッド’と命名され、‘もも農林16号’として登録、公表された。種苗法による登録は1989年10月18日現在申請中である。

本品種の系統図はFig.1に示すとおりである。また、本品種の育成に関与した担当者及び系統適応性検定試験を実施した場所は別表のとおりである。

2. チヨダレッド

本品種は1973年に果樹試験場（当時神奈川県平塚市）において‘ヒラツカレッド’に‘Nectared 5’を交配して育成した交雑実生である。実生番号は‘N-45-10’で、1976年に初結実、1978年に一次選抜され、1980年から系統名‘モモ筑波76号’としてモモ（生食用）第4回系統適応性検定試験に供試された。その結果、早生として品質、栽培性が良好であることが認められ、1989年6月に‘チヨダレッド’

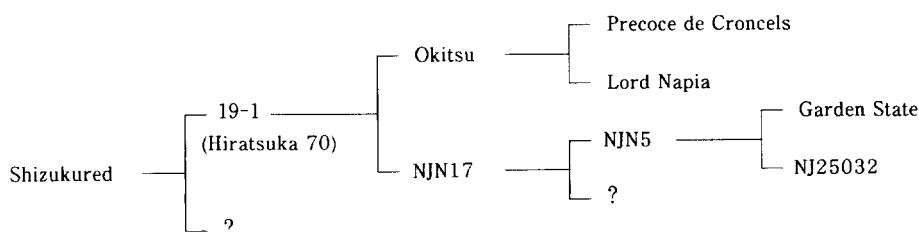


Fig. 1 Pedigree of the 'Shizukured' nectarine

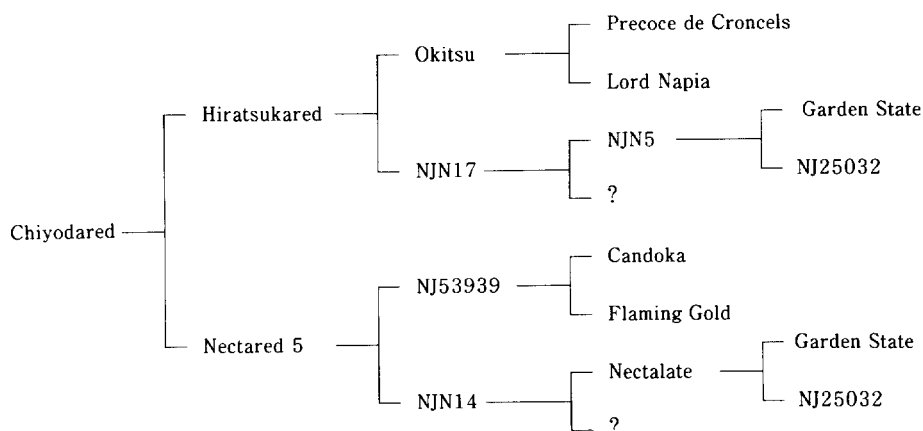


Fig. 2 Pedigree of the 'Chiyodared' nectarine

と命名され、'もも農林17号'として登録、公表された。種苗法による登録は1989年10月18日現在申請中である。

本品種の系統図は Fig.2 に示すとおりである。また、本品種の育成に関与した担当者及び系統適応性検定試験を実施した場所は別表のとおりである。

3. ヒタチレッド

本品種は1973年に果樹試験場（当時神奈川県平塚市）において'19-18'に'Fantasia'を交配して育成した交雑実生である。'19-18'は'興津'に'NJN17'を交配して育成した系統で'ヒラツカレッド'とは両親を同じくする。また'Fantasia'はアメリカのカリフォルニアから導入された大果で晩生のネクタリンである。実生番号は'N-35-11'で、1977年に初結実、1978年に一次選抜され、1980年から、系統名'もも筑波77号'としてモモ（生食用）第4回系統適応性検定試験に供試された。その結果、早生として品質、栽培性ともに良好であることが認められ、1989年6月に'ヒタチレッド'と命名され、'もも農林18号'として登録、公表された。種苗法による登録は1989年10月18日現在申請中である。

本品種の系統図は Fig.3 に示すとおりである。また、本品種の育成に関与した担当者及び系統適応性検定試験を実施した場所は別表のとおりである。

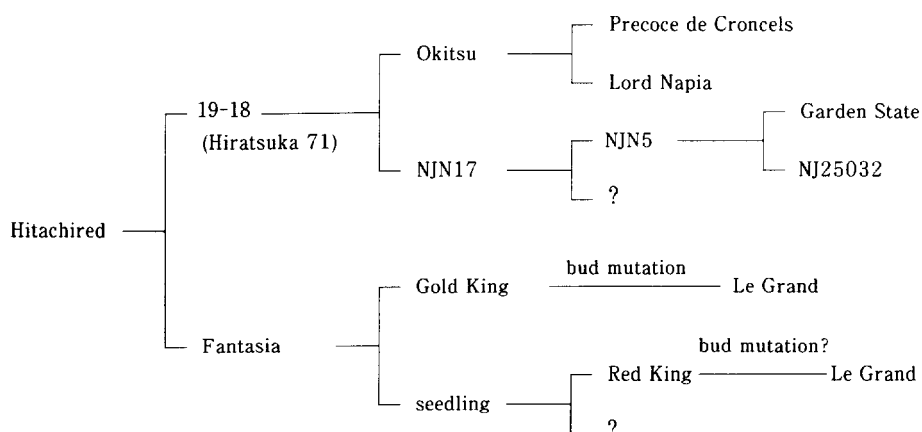


Fig. 3 Pedigree of the 'Hitachired' nectarine

別表 品種育成担当者及び担当期間

育成担当者	担 当 期 間		
	シズクレッド	チヨダレッド	ヒタチレッド
金戸 橘夫	1972～'73		
吉田 雅夫	1972～'87	1973～'87	1973～'87
西田 光夫	1973～'76	1973～'76	1973～'76
京谷 英壽	1972～'85	1973～'85	1973～'85
	1987～'89	1987～'89	1987～'89
山口 正己	1976～'88	1976～'88	1976～'88
小園 照雄	1977～'89	1977～'89	1977～'89
石澤 ゆり	1985～'89	1985～'89	1985～'89
西村 幸一	1988～'89	1988～'89	1988～'89

別表 系統適応性検定試験実施場所

場 所 名	シズクレッド	チヨダレッド	ヒタチレッド
宮城県園芸試験場		○	○
秋田県果樹試験場天王分場	○	○	
山形県立園芸試験場	○	○	○
福島県果樹試験場	○	○	○
群馬県園芸試験場			○
山梨県果樹試験場	○	○	○
長野県果樹試験場	○	○	○
長野県南信農業試験場	○	○	
愛知県農業総合試験場園芸研究所	○	○	○
岡山県立農業試験場	○	○	○
熊本県果樹試験場	○	○	○

○：系統適応性検定試験実施

特 性 の 概 要

1. シズクレッド

(1) 形態的特性

i 樹の特性

樹の開張度は中くらいで、樹勢はやや強い(Fig.4)。枝条の発生は中くらいで、太さはやや太く、節間長は中くらいである。一年生の枝条の地色は緑で、陽光面は赤く着色する。葉は緑黄色で大きさは中くらいである。蜜せんの形は腎臓形である。花芽の着生は中くらいで単芽と複芽が混合している。花は普通咲、単弁で、花弁色は桃色である。花粉が多く、自家結実して結実は良好である(Table 1 ; Fig.11 本稿末尾)。

ii 果実の特性

果形は短楕円で果実の大きさは約140gである。果頂部は浅くへこみ、縫合線は浅い。果皮の地色は黄色であるが、全面に赤く着色する。毛じはなく、光沢がある。裂果は少ないが、果頂部が先に熟するため、収穫が遅れると果頂部の果皮が弱くなり、裂果が多くなる傾向がみられる。果肉色は黄色で、肉内の紅い着色はわずかである。肉質は溶質で軟、やや密〜中で果汁は多い。甘味はやや少、屈折計示度は10度くらいであるが、早生のネクタリンとしては高い。酸味は強く、pH3.6くらいであるが、ネクタリンとしては普通である。渋味はない。香気はやや少である。核は粘核で楕円形、大きさはやや大、色は淡褐色である(Table 2 ; Fig.5,6 ; Fig.9,10 本稿末尾)。



Fig.4. Tree of 'Shizukured'.

Table 1. Tree characteristics of ‘Shizukured’ (1988).

District	Tree			Flower bud	Physiological fruit drop	Yield (kg/tree)
	Age	Shape	Vigor			
Akita	6	Slightly upright	Weak	Few	—	—
Yamagata	6	Medium	Medium	Many	Little	27.6
Fukushima	9	Slightly upright	Vigorous	Medium	Little	54.6
Tsukuba	8	Medium	Slightly vigorous	Medium	Little	15.4
Yamanashi	9	Upright	Vigorous	Slightly many	Little	78.0
Nagano (Suzaka)	8	Slightly upright	Vigorous	Few	Little	26.7
Nagano (Shimoina)	7	Upright	Vigorous	Few	Little	7.5
Aichi	8	Slightly upright	Medium	Many	Little	—
Okayama	7	Upright	Vigorous	Medium	Little	26.2
Kumamoto	6	Upright	Vigorous	Many	Little	11.5

Table 2. Fruit characteristics of ‘Shizukured’ (1988).

District	Shape	Fruit wt (g)	Uniformity	Skin blush	Cracking	Texture	Bx	pH	Astringency	Keeping quality	Pit splitting
Akita	Round	118	—	Much	None	Slightly fine	15.8	3.6	None	—	None
Yamagata	Round-elliptic	200	Medium	Slightly	Little	Medium	11.8	3.5	None	—	Slightly much
Fukushima	Round-elliptic	162	Good	Much	Medium	Slightly fine	9.9	3.5	None	Medium	Medium
Tsukuba	Round-elliptic	151	Fair	Much	Medium	Slightly fine	10.2	3.6	None	Medium	Much
Yamanashi	Round-elliptic	157	Fair	Slightly much	Little	Medium	9.4	3.7	None	Medium	Medium
Nagano (Suzaka)	Round-elliptic	156	Medium	Slightly much	Little	Medium	9.9	3.2	None	Medium	Much
Nagano (Shimoina)	Round-elliptic	164	Medium	Medium	Slightly much	Medium	8.6	3.7	None	Slightly poor	Medium
Aichi	Round-elliptic	100	Medium	Much	Much	Fine	7.5	3.8	None	Medium	Much
Okayama	Round	155	Fair	Slightly much	Medium	Medium	10.1	3.6	None	—	Much
Kumamoto	Round	152	Medium	Much	None	Medium	10.2	3.3	None	Medium	Little
Average		152					10.3	3.6			

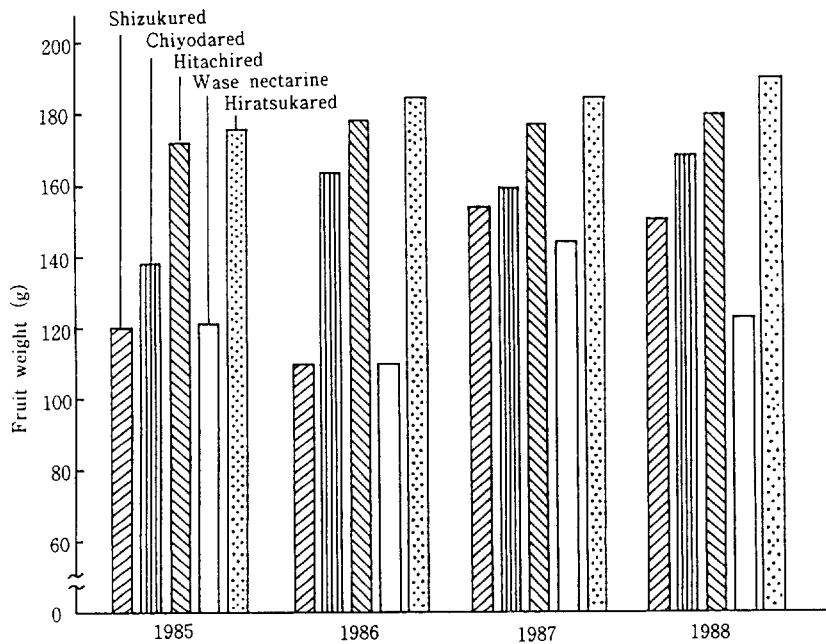


Fig.5. Seasonal changes of fruit weight in 'Shizukured', 'Chiyodared', 'Hitachired' 'Wase nectarine' and 'Hiratsukared' nectarine (average of tested district).

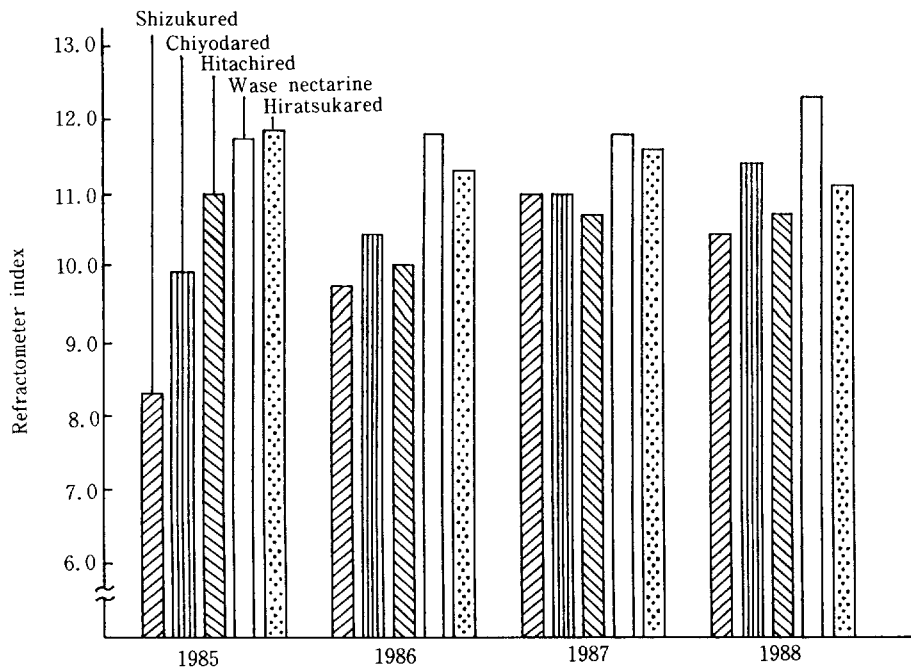


Fig.6 Refractometer index of 'Shizukured', 'Chiyodared', 'Hitachired' 'Wase nectarine' and 'Hiratsukared' nectarine (average of tested district).

(2) 栽培的特性

樹が若木のときは直立しやすい。枝条の発生の中くらい、花芽の多少も中くらいで、ともに‘ヒラツカレッド’よりやや少ないが、花粉が多く、自家結実性で、生理的落果も少なく、結実の確保は難しくない。灰星病の発生が少しみられるが、雨による裂果は多くないので、無袋栽培も可能であるが、果皮の肌荒れが発生する場合があります、そのような所では袋掛けが必要になると思われる。果頂部が先に軟化しやすく、収穫が遅れるとそこが裂果のもとになる。

開花期は‘早生ネクタリン’より数日早く、‘ヒラツカレッド’とほぼ同じである。成熟期は早生で、‘早生ネクタリン’より約10日、‘ヒラツカレッド’より約15日早く熟する。開花盛期から収穫盛期までの成熟日数は1988年で平均89日である (Table 7)。

(3) 将来性

ネクタリンは美しく、光沢のある外観と独特の風味で、近年のし好の多様化した時代の傾向に合っ
て生産は増えてきているが、まだ生産量は少ない。品種も少なく、早生では‘早生ネクタリン’、‘水
野ネクタリン’と導入品種の‘Nectared 1’、‘May Grand’、‘Armking’などがあるが、品質や栽培性に問
題が多く、‘早生ネクタリン’を除いてほとんど栽培されていない。

‘シズクレッド’はネクタリンとしては熟期が最も早いグループに属し、競合する品種がほとんどな
いため、ネクタリンを各品種の熟期でつないで長期間にわたって生産したいとする産地において、早
生のネクタリンとして採用されることが期待できる。

2. チヨダレッド

(1) 形態的特性

i 樹の特性

樹の開張度の中くらいで、樹勢はやや強い (Fig.7)。枝条の発生は中くらい、太さはやや太く、節間
長は中くらいである。一年生の枝条の地色は緑色で、陽光面は赤く着色する。葉は緑黄色で大きい。
蜜せんの形は腎臓形である。花芽の着生は中くらいで、単芽と複芽が混合している。花は普通咲、単
弁で花弁色は桃色である。花粉を有し、結実は良好である (Table 3 ; Fig.14 本稿末尾)。

ii 果実の特性

果形は円～短楕円で果頂部がやや広く、安定感がある。果実の大きさは約170gである。果頂部は浅
くへこみ、縫合線は浅い。果皮の地色は黄色であるが、全面に濃い赤に着色する。毛じは無く、光沢
がある。裂果は少ない。果肉色は黄色で、肉内の紅の着色は少しみられる。肉質は溶質で軟、やや密
～中で果汁が多い。甘味は中～やや少、屈折計示度は11度前後であるが、この熟期のネクタリンとし
ては多いほうである。酸味が強く、pH3.5くらいでネクタリンとしてもやや多めであるが、糖度の高
いものは濃厚な食味となる。渋味はほとんどない。香気はやや少ない。核は粘核で短楕円形、大き
さは中くらい、色は淡褐色である (Table 4 ; Fig.5,6 ; Fig.12,13, 本稿末尾)。



Fig.7. Tree of 'Chiyodared'.

(2) 栽培的特性

樹が、特に若木のとき直立しやすい。枝条の発生は中くらい、花芽の着生の多少も中くらいで、ともに‘ヒラツカレド’よりやや少ないが、花粉が多く、自家和合性で結実は良好である。しかし、開花が早くて寒害を受けやすい年は結実がやや不足することがある。灰星病の発生は少なく、雨による裂果も少ないので無袋栽培は可能である。果皮の着色は濃く、暗赤色になる果実もある。ま

Table 3. Tree characteristics of 'Chiyodared' (1988).

District	Tree			Flower bud	Physiological fruit drop	Yield (kg/tree)
	Age	Shape	Vigor			
Miyagi	TG 4	—	Medium	Medium	Little	—
Akita	6	Medium	Weak	Medium	—	—
Fukushima	TG 9	—	Slightly vigorous	Slightly many	Little	6.4
Tsukuba	15	Medium	Vigorous	Medium	Little	38.1
Yamanashi	9	Upright	Slightly vigorous	Many	Little	72.0
Nagano (Suzaka)	8	Medium	Slightly vigorous	Medium	Little	15.4
Nagano (Shimoina)	7	Slightly upright	Medium	Medium	Little	13.7
Aichi	8	Upright	Vigorous	Many	Little	—
Okayama	7	Upright	Vigorous	Medium	Little	32.4

TG : Top Grafting

Table 4. Fruit characteristics of ‘Chiyodared’ (1988).

District	Shape	Fruit wt (g)	Uniformity	Skin blush	Cracking	Texture	Bx	pH	Astringency	Keeping quality	Pit splitting
Miyagi	Round	189	Fair	Much	Medium	Medium	11.0	3.3	None	—	Much
Akita	Round	153	Good	Much	Present	Fine	17.6	3.8	Little	—	Present
Fukushima	Round-elliptic	194	Good	Much	Little	Slightly fine	10.4	3.4	None	Fair	Little
Tsukuba	Round-elliptic	165	Fair	Much	Little	Slightly fine	9.7	3.7	None	Medium	Slightly little
Yamanashi	Round	145	Fair	Much	None	Medium	8.7	3.4	None	Fair	Little
Nagano (Suzaka)	Round	178	Good	Much	None	Slightly fine	12.5	3.4	None	Good	None
Nagano (Shimoina)	Round	141	Medium	Much	None	Medium	9.4	3.4	None	Good	Little
Aichi	Round	188	Good	Much	Little	Medium	11.7	3.5	None	Good	Little
Okayama	Round	170	Good	Slightly much	Little	Slightly fine	12.1	—	None	—	Much
Average		169					11.4	3.5			

た、着色が早く、濃いので早採りになりやすいが、酸味が強く、早採り果は食味が劣るので注意が必要である。

開花期は‘早生ネクタリン’、‘ヒラツカレッド’より数日早い。収穫期が‘早生ネクタリン’より約5日、‘ヒラツカレッド’より約10日早い早生種である。成熟日数は1988年で平均96日である (Table 7)。

(3) 将来性

‘チヨダレッド’は‘シズクレッド’より1週間おそく熟する早生のネクタリンで、品質、日持ち性ともに良好であり、既存の品種で同時期に熟するよい品種がないため、山梨などのネクタリン産地に普及することが期待される。また、今回登録になった3品種のうちでは最も日持ち性が良いことも普及に有利な特性と言える。

3. ヒタチレッド

(1) 形態的特性

i 樹の特性

樹姿はやや直立性で、樹勢は強い (Fig.8)。枝条の発生は中くらいで、太さ、節間長も中くらいである。一年生の枝条の地色は緑色で陽光面は紅く着色する。葉は緑黄色で大きさは中くらいである。蜜せんの形は腎臓形である。花芽の着生は中くらいで、単芽と複芽が混合している。花は普通咲、単弁で花弁色は桃色である。花粉を有し、結実は良好である (Table 5 ; Fig 17 本稿末尾)。

ii 果実の特性

果形は円～短楕円で、果頂部はやや狭い。果実の大きさは約180gである。果頂部は浅くへこみ、縫

合線は浅い。果皮の地色は黄色であるが、全面に紅く着色する。毛じはなく、光沢がある。裂果は少ない。果肉色は黄色で、肉内に紅い着色が少しみられる。肉質は溶質で軟、やや密～中、果汁が多い。甘味は中～やや少、屈折計示度は11度前後であるが、この熟期のネクタリンとしては多いほうである。酸味は強く、pH3.5くらいであるが、食べた感じではpHの数値ほど強くは感じないので食味は良好である。渋味はほとんどない。香気はやや少ない。核は粘核で、短楕円形、大きさは中くらい、色は褐色である (Table 6 ; Fig.5,6 ; Fig.15,16, 本稿末尾)。

(2) 栽培的特性

樹勢が強く、若木のとき直立しやすい。枝条の発生は中くらい、花芽の着生も中くらいで、ともに‘ヒラツカレッド’よりやや少ないが、花粉は多く、自家和合性で、結実は良好である。しかし、開花の早い年は寒害を受けやすく、結実不足になることがある。灰星病の発生は少なく、雨による裂果も少ないほうで、病虫害の少ない所では無袋栽培も可能と思われる。着色は成熟につれて急に増えてくるが、それまでは進み方が遅いほうであり、着色を待って収穫すると遅採りになりやすいので注意する。

開花期は早く、‘ヒラツカレッド’とほぼ同じである。収穫期は‘早生ネクタリン’とほぼ同じで‘ヒラツカレッド’より一週間ぐらい早い。成熟日数は1988年で平均102日である (Table 7)。

(3) 将来性

‘ヒタチレッド’は‘シズクレッド’より約10日、‘チヨダレッド’より数日おくれて収穫され、‘早生ネクタリン’と同じか、少し早く収穫される中生に近い早生のネクタリンである。‘チヨダレッド’と収穫期は近いが、少しおくれて熟し、すぐ続けて収穫されるので、良い品種が少ないこの時期にこれらの品種を用いることによって良質のネクタリンの出荷期間を拡げることができる。また、‘チヨダレッド’とくらべて酸味がやや少なく、日本人の好みに合っていることもあわせると、‘チヨダレッド’同様、山形、福島から山梨、長野のネクタリン産地に普及することが期待される。



Fig.8. Tree of 'Hitachired'.

Table 5. Tree characteristics of 'Hitachired' (1988).

District	Tree			Flower bud	Physiological fruit drop	Yield (kg/tree)
	Age	Shape	Vigor			
Miyagi	TG 4	—	Vigorous	Medium	Little	—
Yamagata	6	Slightly upright	Medium	Many	Medium	8.0
Fukushima	TG 9	—	Slightly vigorous	Slightly many	Little	8.8
Tsukuba	15	Slightly upright	Slightly vigorous	Medium	Medium	40.0
Gunma	5	Upright	Vigorous	Many	Little	38.8
Yamanashi	9	Upright	Vigorous	Slightly many	Little	135.8
Nagano (Suzaka)	8	Slightly upright	Medium	Many	Little	35.0
Aichi	8	Upright	Vigorous	Many	Little	—
Okayama	7	Upright	Vigorous	Many	Little	25.7

TG : Top Grafting

Table 6. Fruit characteristics of 'Hitachired' (1988).

District	Shape	Fruit wt (g)	Uniformity	Skin blush	Cracking	Texture	Bx	pH	Astringency	Keeping quality	Pit splitting
Miyagi	Round	143	Fair	Much	Medium	Medium	10.2	3.5	None	—	Much
Yamagata	Round elliptic	242	Slightly poor	Medium	Very little	Slightly fine	9.2	3.5	Very little	—	Slightly fine
Fukushima	Round-elliptic	200	Medium	Much	Little	Slightly fine	12.0	3.4	None	Medium	Little
Tsukuba	Round-elliptic	156	Fair	Much	Little	Slightly fine	9.3	3.8	None	Medium	Little
Gunma	Elliptic	202	Fair	Medium ~ Much	Little ~ Medium	Fine	9.7	3.7	None	Medium	Little
Yamanashi	Round elliptic	143	Medium	Much	Little	Medium	10.1	3.5	None	Medium	Very little
Nagano (Suzaka)	Round elliptic	195	Good	Much	None	Medium	11.1	3.5	None	Medium	Little
Aichi	Round	169	Fair	Much	Medium	Slightly rough	11.4	3.4	None	Good	Medium
Okayama	Round	167	Fair	Slightly much	Little	Slightly fine	12.2	—	None	—	Much
Average		180					10.6	3.5			

Table 7. Flowering and ripening time of 'Shizukured', 'Chiyodared', 'Hitachired', 'Wase nectarine' and 'Hiratsukared' nectarine.

District	year	Shizukured			Chiyodared			Hitachired			Wase nectarine			Hiratsukared		
		Flowering time	Ripening time	Days after full bloom	Flowering time	Ripening time	Days after full bloom	Flowering time	Ripening time	Days after full bloom	Flowering time	Ripening time	Days after full bloom	Flowering time	Ripening time	Days after full bloom
	1985															
	1986															
Miyagi	1987				4.21	7.30	100	4.23	7.30	98	4.23	8.2	101	4.20	8.3	105
	1988				4.27	8.8	103	4.25	8.4	101	4.27	8.10	105	4.27	8.12	107
	1985															
	1986															
Akita	1987															
	1988	5.8	8.8	92	5.7	8.8	93				5.11	8.8	89			
	1985	4.30	8.5	97				4.29	8.12	105				4.30	8.16	108
	1986	5.3	8.4	93				5.2	8.11	101				5.2	8.18	108
Yamagata	1987	4.25	7.24	90				4.25	8.4	101				4.25	8.10	107
	1988	5.1	7.29	89				5.1	8.13	104				4.28	8.17	111
	1985	4.26	7.22	87	4.25	7.24	90	4.26	8.5	101	4.26	7.24	89	4.26	8.9	105
	1986	4.25	7.22	88	4.25	7.26	92	4.25	8.4	101	4.26	8.1	97	4.27	8.12	107
Fukushima	1987	4.18	7.17	90	4.16	7.22	97	4.18	7.24	97	4.20	7.20	91	4.20	7.28	99
	1988	4.26	7.25	90	4.26	7.29	94	4.26	8.1	97	4.28	8.3	97			
	1985	4.21	7.8	87	4.12	7.12	91	4.11	7.22	102	4.18	7.19	92	4.14	7.31	108
	1986	4.15	7.9	85	4.14	7.21	98	4.14	7.23	100	4.21	7.25	95	4.17	8.4	109
Tsukuba	1987	4.3	7.6	94	4.7	7.13	97	4.4	7.13	100	4.11	7.24	104	4.8	7.27	110
	1988	4.14	7.8	85	4.14	7.15	92	4.9	7.18	100	4.18	7.13	86	4.16	7.29	104
	1985															
	1986							4.14	7.28	105				4.16	7.30	105
Gunma	1987							4.7	7.15	99				4.9	7.27	109
	1988							4.13	7.18	96				4.13	7.25	103

Contd

摘 要

1. 果樹試験場では1961年からネクタリンの品種改良に着手し、交雑育種法によって新品種の育成を図ってきたが、1989年に早生の3品種を育成した。

2. ‘シズクレッド’は1972年、‘19-1’の自然交雑によって得られた実生で、個体番号‘N-18-11’、系統番号‘モモ筑波74号’として試験され、1989年に‘もも農林16号’として命名、登録された(Fig.1). ネクタリンとしては極めて早く熟する品種のひとつで、‘早生ネクタリン’より約10日、‘ヒラツカレッド’より約15日早く収穫される(Table 7). 果実の大きさはやや小、黄肉で肉質はやや良、甘味やや少、酸味多で食味はやや良である。裂果は少なく、無袋栽培も可能である。樹姿は中、樹勢はやや強で、花芽の着生量は中である。病虫害の被害は少なく、栽培適地は東北から九州まで広い(Table1,2).

3. ‘チヨダレッド’は1973年、‘ヒラツカレッド’に‘Nectared 5’を交配して得られた交雑実生で、個体番号‘N-45-10’、系統番号‘モモ筑波76号’として試験され、1989年に‘もも農林17号’として命名、登録された(Fig.2). ネクタリンとしては早く熟する品種であり、‘早生ネクタリン’より約5日、‘ヒラツカレッド’より約10日早く収穫される(Table 7). 果実の大きさは中、黄肉で、肉質はやや良、甘味中、酸味多で食味はやや良である。裂果は少なく、無袋栽培も可能である。樹姿は中、樹勢はやや強で、花芽の着生量は中である。病虫害の被害は少なく、栽培適地は‘シズクレッド’同様、東北から九州まで広い(Table 3,4).

4. ‘ヒタチレッド’は1973年、‘19-18’に‘Fantasia’を交配して得られた交雑実生で、個体番号‘N-35-11’、系統番号‘モモ筑波77号’として試験され、1989年に‘もも農林18号’として命名、登録された(Fig.3). ネクタリンとしては比較的早く熟する品種で、‘早生ネクタリン’とほぼ同時期で、‘ヒラツカレッド’より約1週間早く収穫される(Table 7). 果実の大きさは中、黄肉で、肉質はやや良、甘味中、酸味は多で食味はやや良である。裂果は少なく、無袋栽培も可能である。樹姿はやや直で、樹勢は強く、花芽の着生量は中である。病虫害の被害は少なく、‘シズクレッド’、‘チヨダレッド’同様、栽培適地は東北から九州まで広い(Table 5,6).

5. これら3品種は熟期の引続いた早生品種であり、山梨においては7月上旬から中旬、長野においては7月中旬から下旬にかけて継続的に生産することができる。

引 用 文 献

- 1) 浅見与七. 1927. 日本林檎及び油桃之分類学的研究. 鍋島家農園学術報告.
- 2) Hough, L. F. and C. H. Bailey. 1962. Ten nectarines for eastern north America. Fruit Vars. and Hort. Dig. 17(1): 9-12.
- 3) 果樹種苗協会. 1981-1987. 果樹種苗. No. 1: 14-16. No. 2: 24-31. No. 6: 22-27. No. 16: 14-20. No. 26: 24-28.

- 4) 菊池秋雄. 1948. 果樹園芸学 (上巻) : 129-170. 養賢堂.
- 5) 谷川利善. 1934. 桃の有望新品種. 園試報. 17 : 9-10.
- 6) 吉田雅夫・金戸橘夫・栗原昭夫・西田光夫・京谷英壽・山口正己. 1983. ネクタリン新品種‘ヒラツカ・レッド’について. 果樹試報. A10 : 9-16.

京谷ら：ネクタリン新品種‘シズクレッド’、‘チヨダレッド’及び‘ヒタチレッド’について



Fig. 9. Fruit of 'Shizukured'.



Fig. 10. Bearing of 'Shizukured'.



Fig. 11. Flower of 'Shizukured'.

京谷ら：ネクタリン新品種‘シズクレッド’、‘チヨダレッド’及び‘ヒタチレッド’について



Fig. 12. Fruit of 'Chiyodared'.



Fig. 13. Bearing of 'Chiyodared'.



Fig. 14. Flower of 'Chiyodared'.

京谷ら：ネクタリン新品種‘シズクレッド’、‘チヨダレッド’及び‘ヒタチレッド’について



Fig. 15. Fruit of 'Hitachired'.



Fig. 16. Bearing of 'Hitachired'.



Fig. 17. Flower of 'Hitachired'.